

I -13 令和4年度原子力防災訓練実施結果検討会概要

1 日 時 令和5年3月14日（火） 午後1時30分～

2 場 所 青少年会館大ホール

3 参加者 自衛隊，海上保安庁など国の関係機関，関係市町，関係消防機関，県警察，
庁内関係課及び関係地域振興局等の担当者

4 関係機関から挙げられた主な課題

(1) 本部訓練関係

① 随時，N I S S (※) による情報共有がなされたが，登録されるすべての情報が共有されるため，必要な情報を精査することに時間を要した。

※ 国や自治体間の情報共有のため，緊急時の状況・活動内容を随時時系列に沿った形で記録・整理する等の機能を有する国のシステム

(2) オフサイトセンター関係

① 県や関係市町などが一堂に会して訓練するのは良いが，同じ場所に集まっていることを活かす場面がなかった。

② 原子力災害時における基本的な対応手順は理解できた一方，県・各機能班の状況判断・調整が必要な場面が少なかった。

③ N I S S の操作がスムーズに出来ず，各関係箇所への連絡・依頼が遅れてしまい，対応が時間的に厳しかった。

(3) 退避退域時検査関係

① 訓練の意図や全体像が分かりづらかった。（「当日は〇〇を行ってください」というような具体的作業に関する説明はあったが，その作業や配置された訓練場所がどういった意味合いなのか分かりづらかった。）

② 受付→指定箇所確認検査→簡易除染・汚染拡散防止処置→ヨウ素剤配布等，図による動線案内がなかったため，住民にとってはどのように進んでいくのか分かりづらかったのではない。

(4) 避難所関係

① 計画上の受入れ時間は分かっていたが，実際の避難状況の情報（ポイント通過が予定通りか否かなど）が無かった。

② 原子力防災講習の内容において，避難の手順の説明を丁寧にしてほしかった。特に，原子力防災アプリと連動した初めての訓練でもあったので，アプリを使った避難の手順についても説明があったらよいのではない。

(5) 原子力災害時住民避難支援・円滑化システム関係

① 原子力防災アプリの使用について，今回初ということであったが，受付時に特に混乱はなく，避難住民をスムーズに受け入れることができてよかった。

② 原子力防災アプリについて，事前に訓練説明会の機会等を捉え，県と連携し周知・説明を実施したが，訓練参加者まで浸透しておらず，当日受付で時間を要する箇所もあったため，引き続き県と連携し，広報・周知に努めなければならない。

I -14 オフサイトセンター運営訓練後の振り返り概要

1 各機能班，各チームから出された意見

(1) 活動内容，情報の流れ

- ・ 班内のコミュニケーションを積極的に行い活動に参加できた。
- ・ 発電所からの情報を適宜受信し，原子力防災システムにて必要な情報の収集発信を行うことができた。
- ・ EMC運営は，経験者や研修を受けた者もいるので，アドバイスもあり，理解が進んだ。
- ・ 走行モニタリングについて，システムにどのように反映されるか理解し，システムへの理解が深まった。
- ・ N I S Sを用いて，情報共有することによりタイムリーな対応ができた。また，情報の流れの理解が深まった。
- ・ 主要活用ボードの活用により進行管理ができた。
- ・ 動画等での実動訓練のリアルな共有はよかった。

(2) 他班，チームとの連携

- ・ 情報付与を増やし，他のチームとのやりとりが多い方がよかった。
- ・ 自分の班の動きだけでなく，他の班も知らないと対応が難しいと感じた。
- ・ 指示内容の理解が不十分だと，帰ってきた答えが十分かも判断できず，再度の確認を行うなど非効率な処理となった面があった。
- ・ 事前に担当を決めていて，連携ができた。

(3) 機器の取扱い

- ・ N I S Sの利用方法をよく理解できた。また，N I S Sを活用し他班との連携をとれた。
- ・ 図上演習の受講がなければ，理解が難しい。
- ・ 人員が少数しか集まっていない，初期段階のEMC立ち上げから，実践的に訓練でき，理解が進んだ。

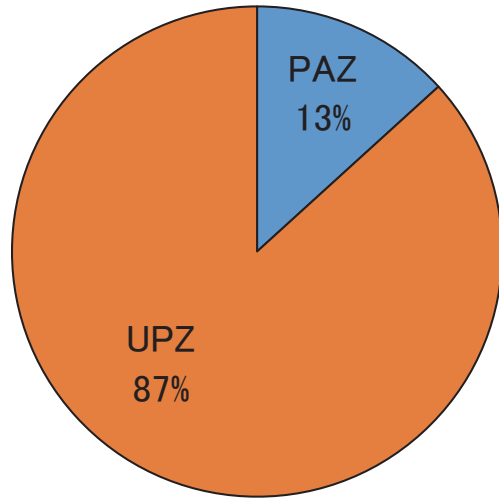
(4) 課題等

- ・ 後半の状況の作り込みが必要。
- ・ 人員の数に対して，作業スペースが狭い。また，パソコン，電話の台数が少ない。N I S Sの利用方法をよく理解できた。
- ・ 基礎知識がないと対処できない部分があるので，研修が必要。

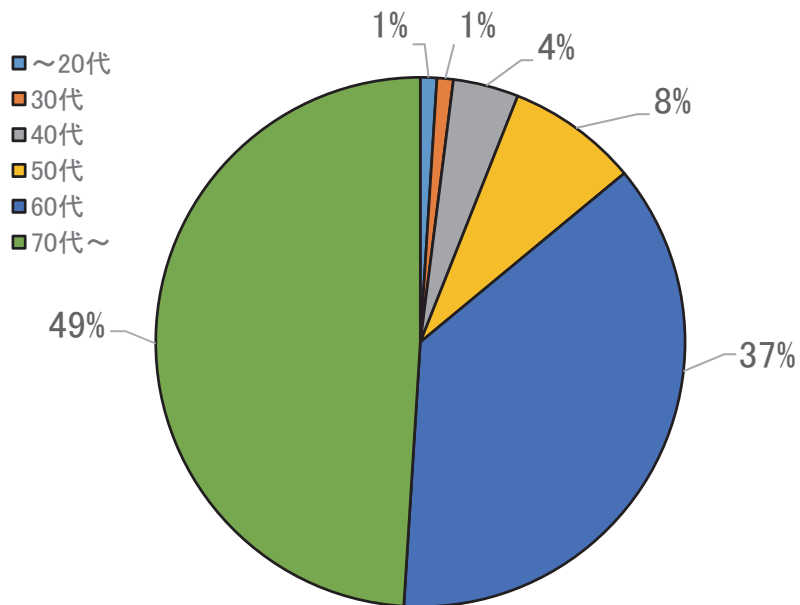
I -15 原子力防災訓練参加住民アンケート結果

○ アンケート回答者数：417人

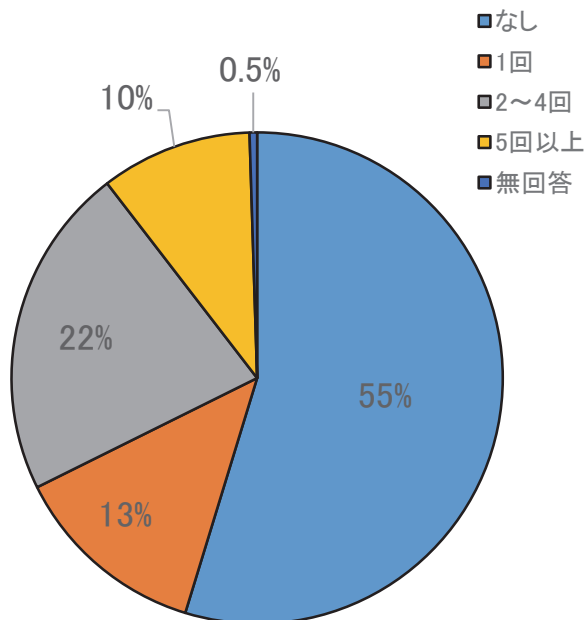
PAZ及びUPZ参加者の割合



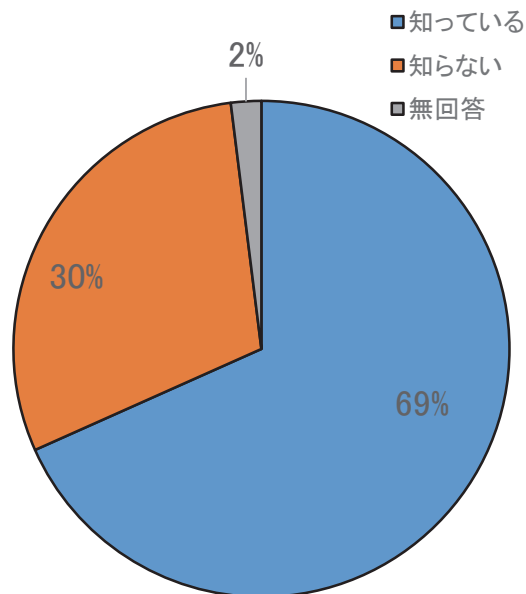
年齢層



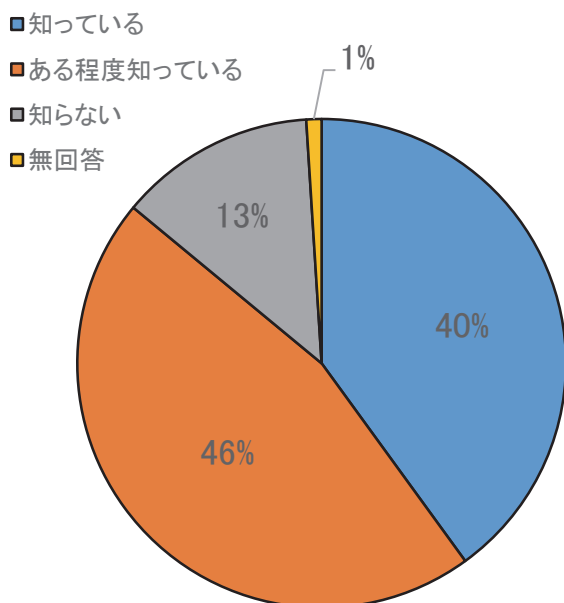
Q1 これまでに原子力防災訓練に参加したことがありますか？



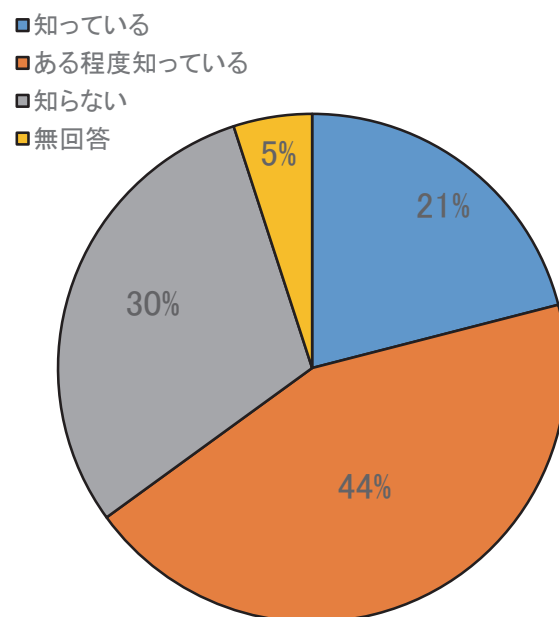
Q2 あなたのお住まいの地域の避難計画を知っていますか？
(※ 鹿児島市除く)



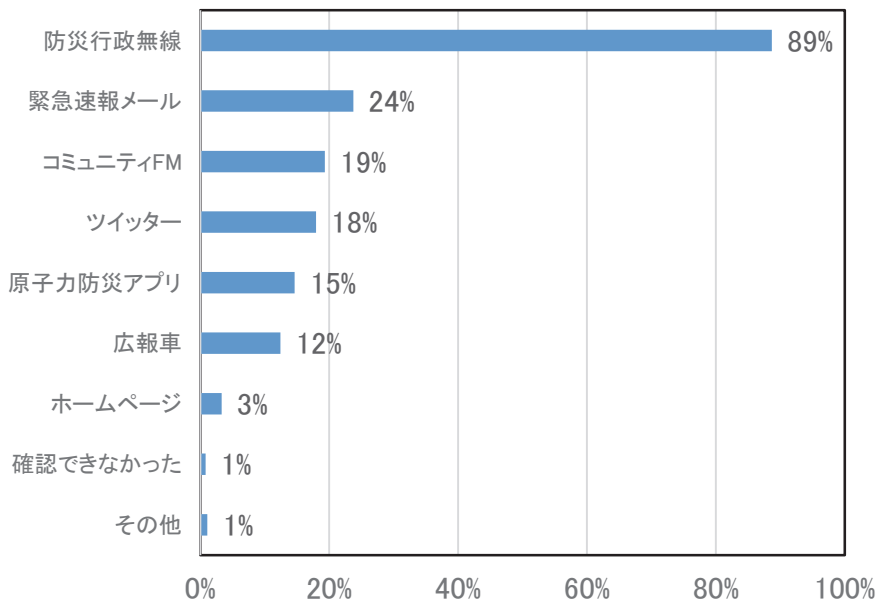
Q3 原子力災害時、あなたの避難方法(避難集合場所・避難先・避難ルートなど)を知っていますか？



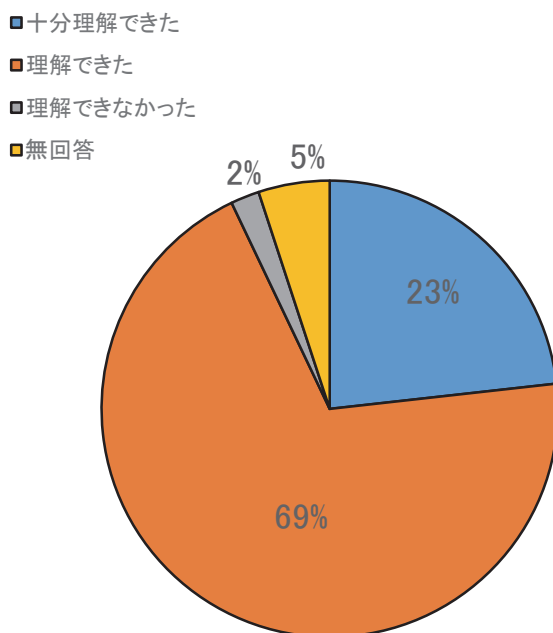
Q4 あなたのお住まいの地域では、いつ、どのような防護措置(屋内退避や避難など)を行うか知っていますか？
(※ 鹿児島市除く)



Q5-1 住民の方々へ避難や屋内退避の指示などを伝える広報訓練を行いました。何によってその指示内容などを確認できましたか？（複数回答可、※鹿児島市除く）



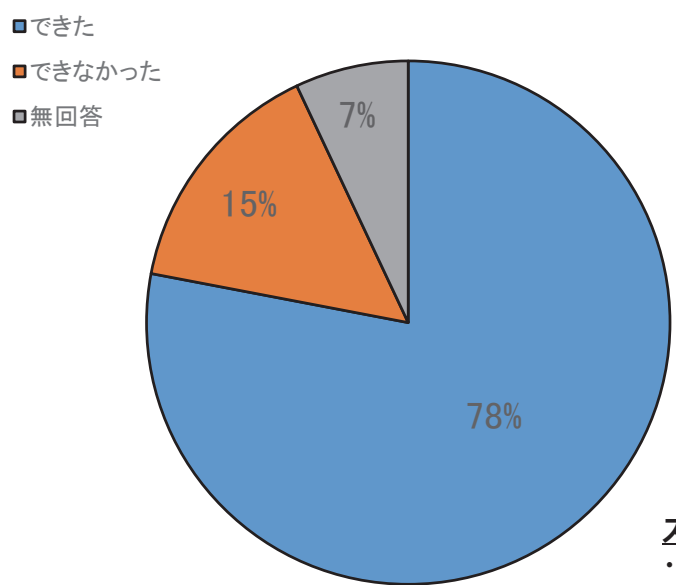
Q5-2 広報の内容（避難や屋内退避の指示など）は、理解できましたか？（※ 鹿児島市除く）



広報内容が理解できなかった主な理由

- ・屋内退避ができない方は指定避難所に避難してくださいとの放送ではなかった。屋内避難のみの放送でした。
- ・風向きに対してどこに避難したらいいか？
- ・屋外防災無線がよく聞こえない。
- ・聞こえにくい。

Q6 原子力防災アプリや紙のQRコードを使用した避難所等の受付はスムーズにできましたか？

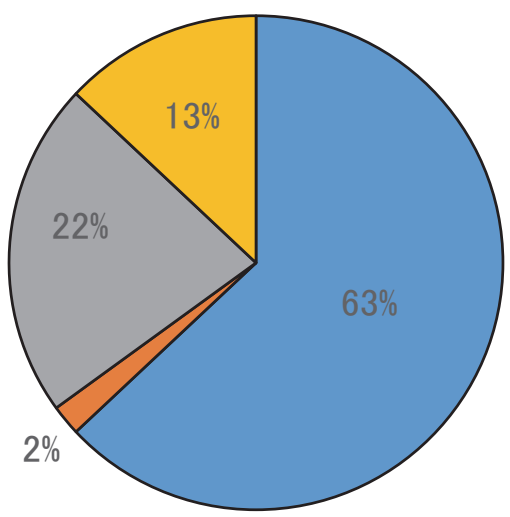


スムーズにできなかった主な理由

- ・QRコードがうまく読めなかった。
- ・事前の登録ができなかった。
- ・受付はスムーズだったが、その前の指示がなく、係の人はもっとちゃんと伝えて欲しかった。
- ・住民行政とも不慣れで訓練が必要。

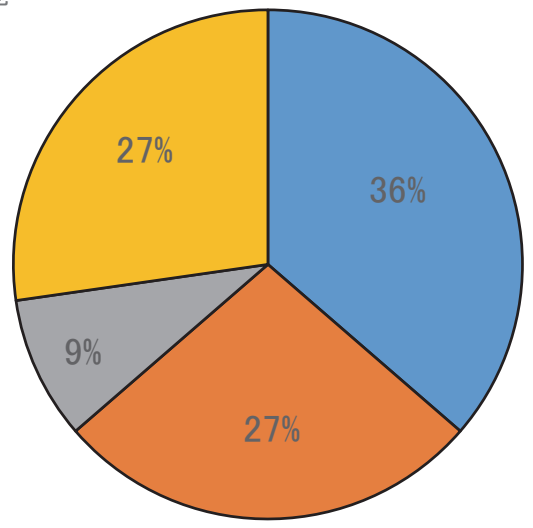
**Q7 安定ヨウ素剤の緊急配布は適切でしたか？
(※ 鹿児島市除く)**

- 適切だった
- 適切ではなかった
- 緊急配布訓練に参加せず
- 無回答



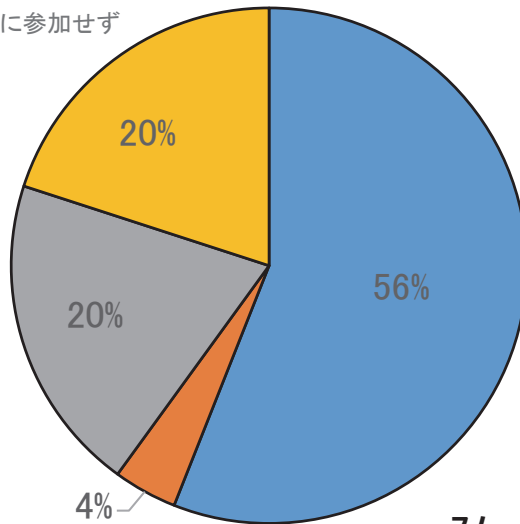
Q7-1 不適切とお答えの方は理由をお聞かせください。

- 説明が聞き取りにくい
- 説明が分かりにくい
- 案内誘導が分かりにくい
- その他



**Q8 原子力防災アプリや紙のQRコードを使用した安定ヨウ素剤
緊急配布はスムーズにできましたか？**
(※ 鹿児島市除く)

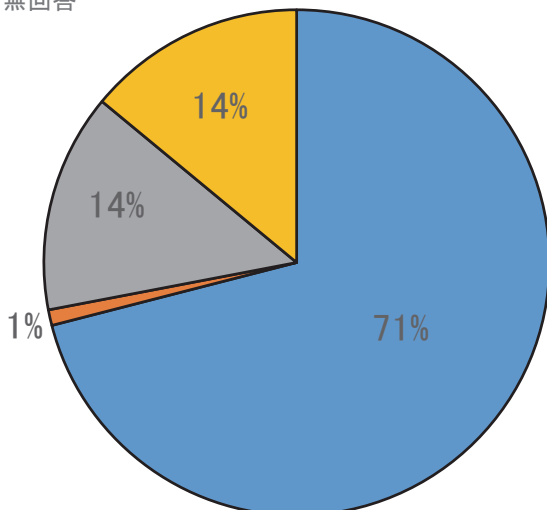
- できた
- できなかった
- 緊急配布訓練に参加せず
- 無回答



スムーズにできなかった主な理由
・スマホの使い方に時間がかかった。

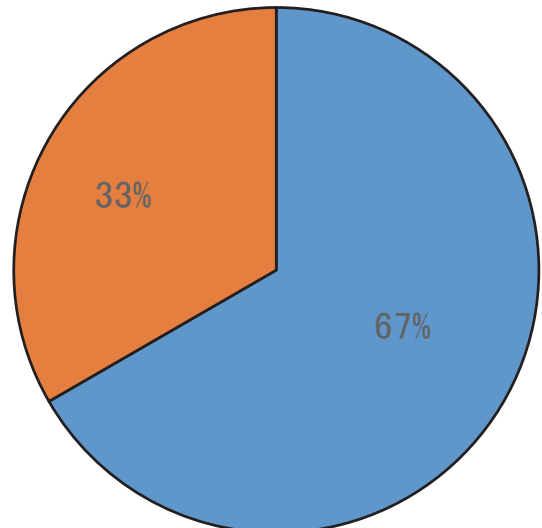
**Q9 自宅又は避難所などでの屋内
退避はできましたか？**
(※ 鹿児島市除く)

- できた
- できなかった
- 屋内退避訓練に参加せず
- 無回答



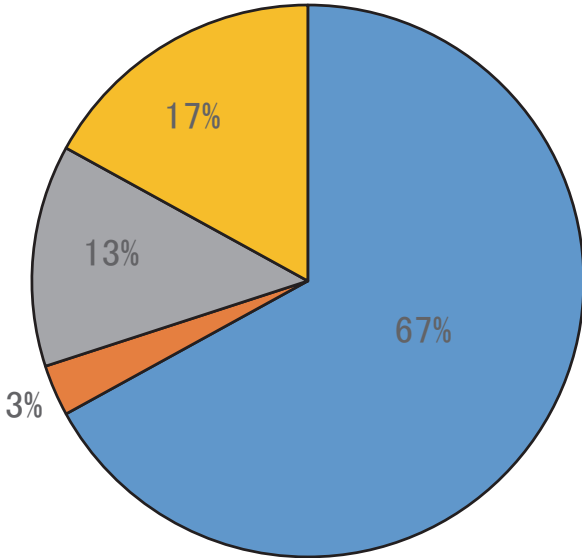
**Q9-1 できなかったとお答えの方は
理由をお聞かせください。**

- 屋内退避の開始指示が
伝わらなかった
- 屋内退避で窓閉め等の
必要性を知らなかった



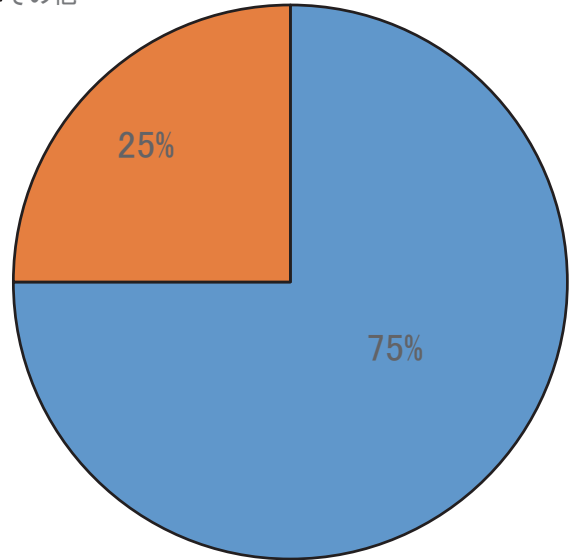
Q10 避難退域時検査場所での検査の流れは理解できましたか？
(※ 鹿児島市除く)

- 理解できた
- 理解できなかった
- 避難退域時検査訓練に参加せず
- 無回答



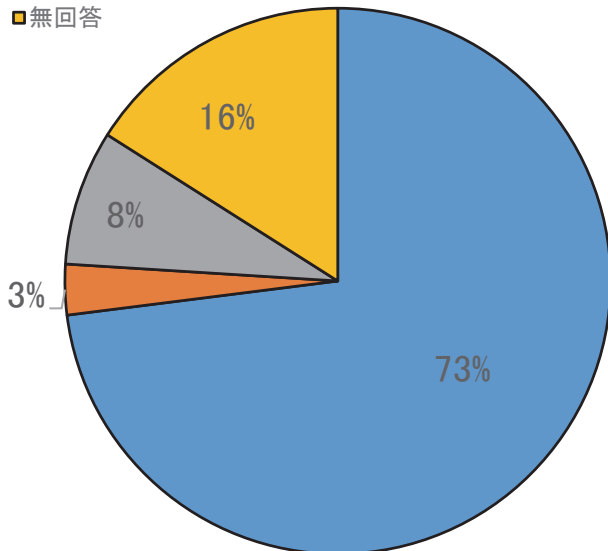
Q10-1 理解できなかったとお答えの方は理由をお聞かせください。

- 検査場所での説明等が分かりにくい・聞き取りにくい
- その他



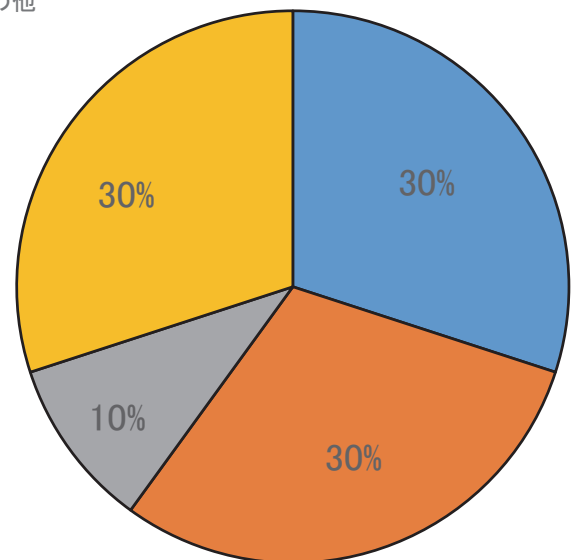
Q11 避難所の受け入れ対応は適切でしたか？
(※ 鹿児島市除く)

- 適切
- 不適切
- 避難所受入訓練に参加せず
- 無回答



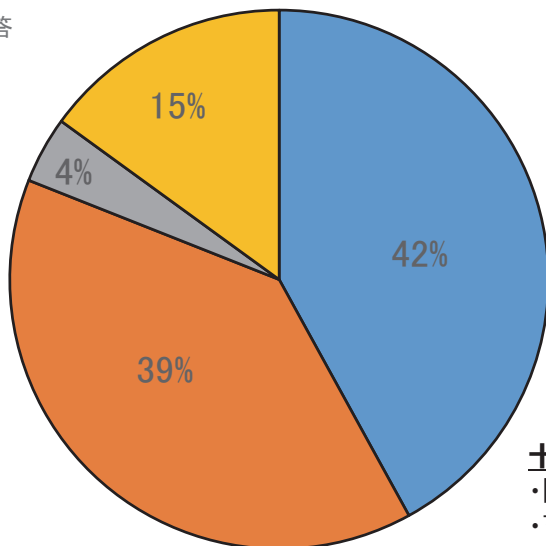
Q11-1 不適切とお答えの方は理由をお聞かせください。

- 避難所到着後の案内誘導がなかった・分かりにくい
- 受付方法の説明がなかった・分かりにくかった
- 避難所施設の説明がなかった・分かりにくい
- その他



Q12 今回の訓練では、感染症対策を講じましたが、対策は十分と感じましたか？

- 十分
- 概ね十分
- 不十分
- 無回答

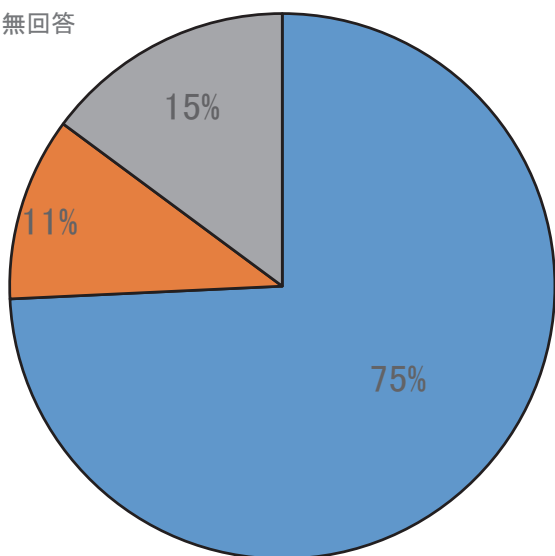


十分ではなかった主な理由

- ・隔離が甘かった。
- ・マスクだけでは十分でない。
- ・席も近い、人数も多い。
- ・長時間だから。咳をする人がいると怖い。

Q13 今回の訓練を体験して避難できると感じましたか？

- できる
- できない
- 無回答

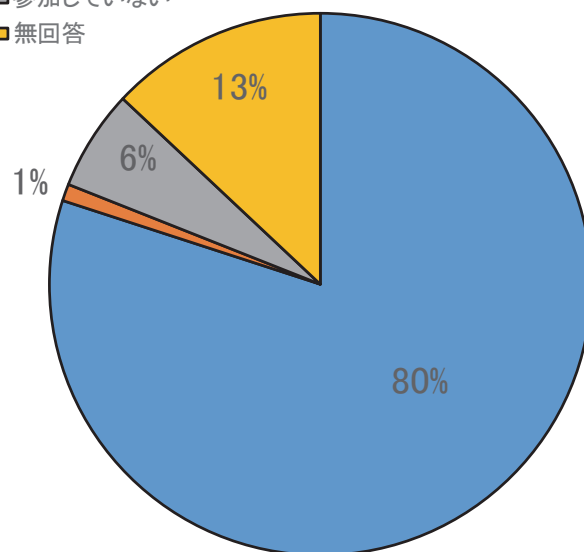


できないと回答した主な理由

- ・気持ちがパニックになった時、思う様に行動出来るか不安。
- ・今回は訓練なので現実はわからない。
- ・昼間・夜間での違い、渋滞などが心配。

Q12 防災講習会は参考になりましたか？

- 参考になった
- 参考にならなかった
- 参加していない
- 無回答



参考にならなかった主な理由

- ・用語が難しい。年寄りにもわかりやすく。
- ・時間が短い。(質問できなかった)

主 な 自 由 意 見

1 訓練想定，内容など

- ① 大変ですが，毎年できますようお願いします。
- ② コロナ・身障者対策が今回はよくできていた。
- ③ 訓練の仕方を地域住民にもっと広報することが必要だと思います。
(地域内の住民の高齢化が進んでいるため)
- ④ 老人，耳の不自由な人，独り住まいの人など，避難が難しい人が多くなった。前もっての準備などを少し考えたい。
- ⑤ もっとたくさんの方が参加できたらと思った。若い人がもっと参加してほしい。市民，島民が積極的に参加する為の工夫を。

2 避難

- ① 今回参加してよかった，訓練だったのでスムーズに出来たが，実際になったら戸惑うと思った。
- ② 避難先が約十箇所ありどうするのか想像できない（住民振り分け，生活時間により対応方法も異なる等）。

3 原子力防災アプリ

- ① アプリのインストールができなかった。インストールしていない人が多く，待たされた。
- ② ガラケーなので使えない。
- ③ アプリを使えない人も多いと思う。アプリの使い方が難しい。QRコードがうまく読み取れなかった。登録できていなかった。

4 安定ヨウ素剤緊急配布

- ① 安定ヨウ素剤の配布に時間がかかり過ぎ。
- ② もっと大きな声で，テキパキと対応しないと危機時は通用しないと思う。

5 避難所等

- ① 避難場所での具体的説明がほしかった。バス内だったので，内容が良くわからなかった。
- ② どこに行けばよいのかははっきり言ってほしかった。

6 避難退域時検査

- ① 除染訓練を代表で行ったが，流れがスムーズとは言えなかった。こんなに1人に時間を使ってさばけるのか？

I -16 外部委託による評価概要

1 訓練評価概要

(1) 評価目的

令和4年度鹿児島県原子力防災訓練を通して、原子力災害発生時における国、県、市町、原子力事業者等の緊急時対応を評価し、防災体制の実効性の確認及び地域防災計画、避難計画、マニュアル類の検証並びに改善等に資すること。

(2) 評価実施時期

令和5年2月11日（土）

(3) 評価対象訓練

下記の訓練を対象として評価を実施した。

- ① 災害対策本部等設置・運営訓練（以下、「本部訓練」）
 - ア 県災害対策本部の設置・運営（以下、「県本部訓練」）
 - イ 薩摩川内市災害対策本部の設置・運営（以下、「市本部訓練」）
- ② オフサイトセンター（以下、「OFC」）関係
 - ア 現地災害対策本部設置・運営訓練（以下、「県現地本部訓練」）
 - イ オフサイトセンター参集・運営訓練（以下、「OFC機能班訓練」）
 - ウ 緊急時モニタリング訓練（オフサイトセンター）（以下、「EMC訓練」）
- ③ 避難退域時検査・原子力災害医療訓練（以下、「避難退域時検査訓練」）
- ④ 住民避難関係
 - ア 避難・避難誘導・屋内退避訓練
 - イ 避難所等設置訓練

※ 以下、上記ア、イを合わせて住民避難訓練と記載、また対象地区によりPAZ避難、UPZ一時移転と表記する。

(4) 評価方法

下記の手法による評価結果を基に、良好事例と助長策、並びに改善すべき事項と今後の対策を抽出した。

- ① 参加者自己評価
 - A. 要員アンケート、B. 訓練振り返り
- ② 第三者評価
 - C. 評価員評価

訓練項目毎の評価手法等を右表に示す。

訓練項目		評価 対象場所	評価手法	評価 員数
①本部 訓練	ア 県本部訓練	鹿児島県庁	A, C	1
	イ 市本部訓練	薩摩川内市役所	A, C	1
②OFC 関係	ア 県現地本部訓練	OFC	A, B, C	3※1
	イ OFC機能班訓練	OFC	A, B, C	4※1
	ウ EMC訓練	OFC	A, B, C	1
③避難退域時検査訓練		さつま町柏原グラウンド	A, C	1
④住民 避難 関係	PAZ避難 (薩摩川内市水引地区)	水引小学校→宝山ホール	A, C	1
	UPZ一時移転 (薩摩川内市八幡地区)	八幡地区コミュニティーセ ンター→柏原グラウンド→ 垂水中央運動公園体育館	A, C	1
	UPZ一時移転 (さつま町神子柳野地区)	神子地区コミュニティーセ ンター→柏原グラウンド→ 霧島保健福祉センター	A, C	1

※1：県現地本部総括広報チーム兼産業経済チーム，医療チーム（OFC医療班と兼任），住民安全チーム，OFC総括班（EMCと兼任），広報班，医療班，住民安全班，実動対処班，及びEMCに評価員を配置し，EMC以外はアドバイザーも兼ねた。

(5) 重点評価項目

① 迅速な初動体制の確立

- ア 各拠点における要員の迅速な参集
- イ 関係機関相互の情報共有
- ウ 各拠点における初動体制の確立

② 各拠点の連携による防護措置の実施等に係る意思決定

- ア 各拠点における緊急時の対応体制の確立
- イ 中央と現地組織との情報共有，意思決定，指示・調整の一元的実行
- ウ 防護措置の実施等に関する意思決定及び迅速な指示等の実施

③ 住民避難，一時移転等の実動訓練

- ア PAZ住民（施設敷地緊急事態要避難者含む）の避難及びUPZ住民の屋内退避実施
- イ 緊急時モニタリング計画に基づく緊急時モニタリング情報の共有
- ウ 安定ヨウ素剤の緊急配布，一時移転及び避難退域時検査等の実施

各本部会議や情報収集，関係機関との連携等，各本部訓練の目的に沿った運営が適切に実施されているかを確認する。また，OFCについては，防護措置の実施資料作成に係る活動が適切に実施されたかを確認する。

- ④ 各拠点の連携上必要な計画，マニュアル類及び資機材の活用
 - ア 計画及びマニュアル類の活用
 - イ 原子力災害時住民避難支援・円滑化システムを活用した住民防護対策の実施
 - ウ 避難車両配車システムによる配車計画の策定及び実施
 - エ 原子力防災システム（以下「N I S S」）等，情報通信システム及び資機材の活用
- ⑤ 新型コロナウイルス等の感染症流行下を想定した対策の実施
 - ア 各拠点，避難車両等における感染防止対策の的確な実施

(6) 評価の基本方針

評価に当たっては，内閣府（原子力防災担当）が策定した「原子力防災訓練ガイダンス企画，実施，評価及び改善のあり方」，「原子力防災担当者のための訓練実務マニュアル<総合訓練編>」（令和2年3月）及び「原子力防災担当者のための訓練実務マニュアル<本部等運営訓練編>」（令和2年3月）を踏まえ，訓練参加者の活動実績と活動のプロセス，並びに訓練方法の評価を行った。

2 訓練成果の全体考察

(1) 良好事例

- ア 鹿児島県災害対策本部（以下，「県本部」）では，避難状況を局内に伝わる声で伝達後，クログロジーの担当者にその内容を示しており，緊要な情報を時系列で共有する流れは演練できていた。
- イ 薩摩川内市災害対策本部（以下，「市本部」）運営訓練では，原子力災害時住民避難支援・円滑化システムが本年度から導入され訓練の場で活用されていた。住民避難状況のリアルタイムでの把握等が期待できる。
- ウ OFCでは，鹿児島県現地災害対策本部（以下，「県現地本部」）OFC機能班及び緊急時モニタリングセンターが連携し，N I S S，原子力災害時住民避難支援・円滑化システム等を活用して住民防護措置や広報に関する意思決定や情報共有が行われた。
- エ 住民避難関係の訓練では，概ね遅滞なく，計画された住民避難や一時移転が実施された。

(2) 課題と対策に関する提案

ア 訓練全般

改善すべき事項	今後の対策に関する提案
<ul style="list-style-type: none"> ・ 例年，2月のこの時期に訓練を実施しているが，実施する季節によって見えてくる課題も変わってくると思うので，次回は別の時期に訓練を実施してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中期的な対応が必要であるが，例えば季節ごとの課題と対応を検討し，それを踏まえた訓練計画を検討する。

イ 訓練内容と日程

改善すべき事項	今後の対策に関する提案
<ul style="list-style-type: none"> ・ O F C では、後半の活動が少なかったとの声が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 班別に処理時間等を勘案した追加付与や全体進捗に応じた付与加減等を検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 第4回対協については、実際に会議資料を作成し、発表することとされていたが、徹底されていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前説明資料、タイムテーブル等に明記するとともに前日説明会及び準備時に再周知する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実動訓練と図上訓練の日程が異なることは周知していたが、一部で情報が錯綜した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 両者の情報が流通することを前提に、どちらの情報か初めに発言又は記載する等の対応を検討する。

ウ 事前準備

改善すべき事項	今後の対策に関する提案
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前の説明会欠席等により、活動手順、用語などが分からなかったとの声が散見される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き事前説明会等への参加促進を図るとともに、基礎知識と対象訓練要点をまとめた資料を作成して配布すること等を検討する。

エ 現場での情報共有と連携・統制

改善すべき事項	今後の対策に関する提案
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現場の責任者が不明確、拠点間や現場各分担間での情報共有不足、当日の手順の細部が分からない等の意見が散見される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な役割分担と各拠点の指揮命令系統、拠点間や避難車両との情報共有体制、各訓練と訓練全体の統制等を明確にし、事前確認とリハーサルを確実に実施する。

3 訓練項目別の成果と課題

(1) 県本部訓練

本部運営、役割分担、重要情報伝達、情報システムの活用などは確実に実施されていた。今後は、O F C との連携やより現実的な状況の設定等により、更に対応能力を向上させることが期待される。

■ 良好事例と助長策 ■

良好事例	助長策
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地震発生と同時に災害対策本部を設置し、その後の事態進展に即して、災害対策本部会議を開催し、必要な防護措置等の意思決定が確実にされていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マニュアル類の整備や、より多くの部署を対象とした図上訓練、テーマを絞った要素訓練などが推奨される。

■ 課題及び対策に関する提案 ■

改善すべき事項	今後の対策に関する提案
特記事項なし	特記事項なし

(2) 市本部訓練

本部運営，役割分担，重要情報伝達などは適切に実施されていた。一方で実災害時を考慮すると，より一層の練度向上と情報共有の促進が求められる。

■ 良好事例と助長策 ■

良好事例	助長策
<ul style="list-style-type: none"> 市本部では，各部署から原子力災害時の本部派遣要員が役割分担とともに定められており，初動対応が迅速かつ円滑であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 異動の場合の引継ぎや，異動後も一定期間は派遣要員とするなどの仕組みを作るとさらに円滑化されると考えられる。

■ 課題及び対策に関する提案 ■

改善すべき事項	今後の対策に関する提案
<ul style="list-style-type: none"> 市本部内のクロノロジーについては，紙媒体が使用され，時系列が前後した表示が散見された。また，掲示が後方にされているため確認しづらく，シートの更新により過去のクロノロジーが確認できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 電子ボードの活用，記入要領（色分け），設置位置の工夫等により重要事項の本部内共有のさらなる改善が期待できる。

(3) OFC関係

ア 全体評価

① 事前説明会に対する評価

アンケートでは，78%が事前説明会の時間が適切，74%が内容を理解できたと回答。ある程度の理解は得られていると考えられるが，内閣府図上演習の参加率が27%と極めて低いこともあり，特に初心者対策とN I S S等の操作実習について，充実させる必要があると考えられる。

■ 課題及び対策に関する提案 ■

改善すべき事項	今後の対策に関する提案
<ul style="list-style-type: none"> 理解できなかった理由として，内容が難しかったの意見と，説明が分かりにくかったと意見が多く，個別意見として，知らない単語による説明が難しかった，図上演習を受講すべき等の意見が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> まず，図上演習の参加促進，事前学習教材等の作成・配布等により，初心者の底上げを図るとともに，説明資料及び説明方法を図解や具体的事例を交えることなどにより，より分かりやすくする工夫が望まれる。

② 訓練シナリオ等の理解度に対する評価

アンケート結果では、訓練シナリオや想定理解度は77%であり、前項同様一定の理解を得られていると考えられるが、初心者対策等を充実させる必要がある。

■ 良好事例と助長策 ■

良好事例	助長策
<ul style="list-style-type: none"> 理解できた要因として、事前説明や資料が役立ったとの意見が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> さらに理解を高めるため、図上演習の参加促進、事前学習教材等の作成・配布等により、初心者の底上げを図るとともに、説明資料及び説明方法を図解や具体的事例を交えることなどを検討する。

■ 課題及び対策に関する提案 ■

改善すべき事項	今後の対策に関する提案
<ul style="list-style-type: none"> 理解できなかった理由は、付与信息が分かりにくかったとの意見が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 特に訓練開始直後の付与信息については、ある程度解説を交えるなど、初心者でも理解できる形を検討する。

③ 機能班等の役割分担等の理解度に対する評価

アンケート結果から、所属機能班等の役割理解度は86%で、概ね理解が得られている。一方、他機能班との連携、OFC、ERC(緊急時対応センター)、自治体の役割分担等についての理解度は、それぞれ71%、74%と相対的にやや低い結果となった。3項目とも、理解できなかった理由としては、全体的に難しかった、活動の機会がなかったとの意見が多かった。

■ 良好事例と助長策 ■

良好事例	助長策
<ul style="list-style-type: none"> 理解できた要因として、事前説明や資料が役立ったとの意見が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> さらに理解度を高めるため、図上演習の参加促進、事前学習教材等の作成・配布等により、初心者の底上げを図るとともに、説明資料及び説明方法を図解や具体的事例を交えることなどを検討する。

■ 課題及び対策に関する提案 ■

改善すべき事項	今後の対策に関する提案
<ul style="list-style-type: none"> 理解できなかったとの回答に対する理由として、活動機会が少ないとの回答が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に少ないとの意見が多い午後の付与及び放射線班等相対的に活動が少なかった班に関する付与の追加を検討する。

④ 避難等の実施資料作成手順の理解度に対する評価

アンケート結果から、避難や一時移転の実施資料作成手順に対する理解度は55%と、昨年度からは上昇したものの、引き続き低い結果となった。

■ 課題及び対策に関する提案 ■

改善すべき事項	今後の対策に関する提案
<ul style="list-style-type: none"> 理解できなかった理由の大半が、活動の機会が少なかったことを挙げている。 	<ul style="list-style-type: none"> 県現地本部住民安全チーム及びOFC住民安全班以外の班は、本件に関する活動が少ないので、関連する付与の設定等により活動機会を増やし、理解を促進することが望まれる。

⑤ 資機材

N I S S及び原子力災害時住民避難支援・円滑化システムが活用され、今後のシステムの改良と研修等により要員の練度向上を図ることにより、情報の伝達・共有の効率化及び迅速性・確実性の向上等が期待できる。

■ 良好事例と助長策 ■

良好事例	助長策
<ul style="list-style-type: none"> 以前に比べ、全体的にN I S Sによる情報共有が進んだと感じられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 重要情報を識別する仕組みの検討、N I S S初心者に対する研修等、より確実性を向上させるとともに、異動時の引き継ぎ時等への対処として平易なマニュアルの整備等も望まれる。

■ 課題及び対策に関する提案 ■

改善すべき事項	今後の対策に関する提案
<ul style="list-style-type: none"> N I S Sの操作に手間取ったり、誤入力により情報伝達に齟齬が生じた例が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 初心者向けの講習会、平易なマニュアルの整備等を進め、全体の練度向上を図ることが望まれる。講習会については、要員が参加しやすいよう、複数回開催、WEB開催、あるいは動画配信等も検討する。
<ul style="list-style-type: none"> OFC 2階の関係機関ブースにモニタがなく、会議映像等を確認できなかったとの意見がみられた。 	<ul style="list-style-type: none"> OFC改修中のため、一時的にモニタを外していたとのことだが、設備配備状況を確認し、必要な措置を講じることが望ましい。当面の策として、仮設設備の設置を検討する。
<ul style="list-style-type: none"> 会議時の音声ボリュームが大きく、会話が阻害されたとの意見がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に各拠点の関係者による接続・通信確認を実施し、適切な音量を設定することが望まれる。

イ 県現地本部訓練

訓練回数を重ねるごとに徐々に各チームの役割分担が浸透してきていると考えられる。

■ 良好事例と助長策 ■

良好事例	助長策
<ul style="list-style-type: none"> 総括・広報チームでは、開始直前に役割分担・要員配置表を使って参集者全員の役割分担が実施された。これにより活動の重複や漏れがなかったと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後はO F C機能班内の役割分担まで踏み込んで連携先を明確にするとともに、チーム毎に県や市町との連携訓練等も検討し、実災害時の対応力強化を図ることが望まれる。
<ul style="list-style-type: none"> 前回同様、研修・訓練経験者が未経験者に助言・指導する事例が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> さらに浸透を図るため、マニュアル等に事例とともに記載、周知し、訓練で実践する。
<ul style="list-style-type: none"> 今年度作成した県現地本部活動チェックシートは、多くの参加者が活用していた。また、役に立つが、具体的にやることを書いてあれば分かりやすいとの意見が寄せられた。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、内容の具体化など拡充を図り、有効性を高めることが望まれる。
<ul style="list-style-type: none"> 総括・広報チームの班員が、直接医療チームに参集人数確認に来た。医療チーム班長は口頭で回答後に、記録に残すためN I S Sでの報告と電話連絡も行うよう班員に指示していた。 	<ul style="list-style-type: none"> 両チームは場所が近いため、迅速な初動体制を確立するため直接確認に来たこと、また医療チームがN I S Sでの報告も併用したことは、情報伝達の即時性と記録保存の観点から推奨される事例である。訓練説明、マニュアル等に記載し、定着を図ることが望まれる。

■ 課題及び対策に関する提案 ■

改善すべき事項	今後の対策に関する提案
<ul style="list-style-type: none"> 産業経済チームの活動事項が少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 産業経済チームは、初動での活動が殆どなく、原子力防災について未確定な部分もあるので、改めて初動時の具体的な活動事項、必要な要員等の計画を策定し、初動時は少数体制とすることも含めて検討することが望ましい。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 県現地医療チーム参集者全員が9月開催の図上演習に参加しておらず、機材（N I S S , 電話, 複合機等）の取り扱い方法を熟知していなかった。そのため、訓練開始直後は医療チームの活動より機材取扱方法の習得に時間を取られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 訓練開始直後の活動は非常に重要で、活動計画を立てて事態進展に先駆けた活動を行いたいところである。そのためには、基本的な機材操作方法を理解していることが必要であり、図上演習への参加促進、或いは個別の講習会の開催等の対策が望まれる。
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ウ OFC機能班訓練

情報機器の活用、県現地本部等と連携により、防護措置の意思決定、会議開催、模擬プレス会見などの主要活動が概ね順調に実施された。一方、内閣府図上演習の参加者が少ない、特に午後の活動が少ないとの指摘がある。

■ 良好事例と助長策 ■

良好事例	助長策
<ul style="list-style-type: none"> ・ 総括班において、開始当初、班長が会議グループと総括グループの両方を見ていたが、情報グループが分業を申し出て、警戒事態の途中以降は、情報管理責任者の下で活動し、班活動が円滑化した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最初から役割分担されていることが望ましいが、途中で状況に合わせて改善することは、臨機応変な対応が求められる災害対応において、非常に重要な行動である。計画や訓練説明等で良好事例として紹介し、定着を図ることが望ましい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2回の模擬記者会見は、事前の役割分担、活動内容確認、運営支援班、プラントチーム等と連携した関連資料の手配、会場設営、及び事務局長への事前説明等、一連の準備を的確に実施したことにより、円滑に実施された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の記者会見の手続き手順をマニュアル、訓練資料等に記載して、周知・定着を図ることが望まれる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ OFC医療班と県現地本部医療チーム間の情報やり取りは、ルール通りN I S S と電話で行ったが、席が隣り合っている利点を活かして、重要事項については対面で検討、相談を行っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係者が一堂に会しているというOFCの特長を活かし、状況に応じて対面でのやり取りすることも必要である。マニュアル、訓練説明等に記載し、周知・定着を図ることが望まれる。また、医療関係の要素訓練を企画し、医療班と医療チーム、関係機関等の連携の在り方を確認・検証することも一案である。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 実動対処班は、市町ブースとの境界に設置した薩摩川内地域の地図を用いて、住民安全班及び県現地本部警察チームと、被害情報や防護措置に関する情報の確認及び避難経路等への影響に関する情報共有を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は、県現地本部が県災害対策本部から入手した情報や実動組織がそれぞれの機関で収集した情報を集約し、一元的な情報管理により迅速に有効活用できる体制について検討する必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・ E R C 実動対処班から防災業務関係者の放射線防護について指示があった際、実動グループは、実動組織の各機関担当を通じてそれぞれの機関にその指示内容を伝達した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、訓練を通して指示内容が、屋外で緊急事態応急対策を行う防災業務関係者に確実に伝達される手順についても試行・検証することが望まれる。

■ 課題及び対策に関する提案 ■

改善すべき事項	今後の対策に関する提案
<ul style="list-style-type: none"> ・ 午前と午後の付与の不均衡、特に午後の付与が少ないとの指摘が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 班別に処理時間等を勘案した追加付与や全体の進捗に応じた付与の加減等を検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民安全班の参加者21名中16名が初めての訓練であり、何をすべきかをイメージできていない者がほとんどであった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度当初に訓練・研修計画を明示するとともに図上演習の効果を説明し、参加を促進する。また、必要な知識や基本的な活動手順をまとめた小冊子等を作成・配布することや、小規模・短時間の要素訓練など、業務多忙な環境でも学習可能な手段を整備することが望まれる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 第4回対協については、実際に会議資料を作成し、発表することとしていたが、徹底されていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前説明資料、タイムテーブル等に明記するとともに前日説明会及び準備時に再周知する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実動訓練と異なる時間軸で並行して実施されており、情報が錯綜するので、対策が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報が錯綜することを前提として、どちらの訓練の情報か分かるよう明示し、事前に周知徹底する。

エ EMC訓練

概ね手順通りの活動が行われていたが、更に実務的な訓練も望まれる。

■ 良好事例と助長策 ■

良好事例	助長策
<ul style="list-style-type: none"> N I S S主体の情報受信，発信であったが，受け取った要員は，口頭で班内周知，発信後も口頭で周知し，さらには，ホワイトボードに整理しており，完璧な情報の整理方法であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ホワイトボードが時間経過とともに一杯になり，既知情報は印刷で残していたが，規定の様式を作り，O F C機能班のように，紙の様式を予め準備する，或いはE x c e lと電子ボードを使うことにより，過去情報も含め，整理，確認がよりし易くなると考えられる。

■ 課題及び対策に関する提案 ■

改善すべき事項	今後の対策に関する提案
<ul style="list-style-type: none"> 訓練開始直後，E M Cの2名の要員が，同じ情報を同じ宛先にN I S Sで送信していた。情報の班内錯綜を防ぐための方法を，事前に検討して共有しておくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 案件に応じた情報の受発信の分担を明確にするとともに，受発信時に内容を口頭で班内に共有することなどの仕組みを構築し，訓練準備時に確認，試行するなどの対策が望まれる。

(4) 避難退域時検査訓練

ア 全般

大きな混乱はなく概ね予定通り進捗したと考えられるが，事前の確認不足や安全上の課題も見られた。

■ 良好事例と助長策 ■

良好事例	助長策
<ul style="list-style-type: none"> 避難退域時検査において，当初，住民に処置内容や結果を誰がどのように伝え，どのように引き継ぐかが不明瞭だったので，皆で業務毎の説明，処置内容，住民に伝える内容を検討した。併せて，住民の不安を軽減するための説明を，チーム員の助言を参考に台詞を考え共有した。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な手順等は事前に明確にしておくことが必要であるが，細部は関係者で協議し，結果を共有するなどの臨機の対応は非常に重要なので，訓練説明等に記載し，定着を図る。

<ul style="list-style-type: none"> 代表者検査の事前練習 一時移転住民が来る前に、一連の対応方法について事前練習（担当者による模擬練習）を実施して備えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 住民の検査をする前に、担当者間で事前訓練することは不明確事項の確認や習熟度向上に役立つものであり、良好事例としてマニュアル等に記載して定着を図る。
<ul style="list-style-type: none"> 検査場所の1時間毎のBG測定結果を表示して関係者に情報共有されていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 左記良好事例をマニュアル等に記載し、普及・定着を図る。
<ul style="list-style-type: none"> 住民検査チームでは適時指示（開始時、説明必要時、休憩、終了等のアナウンス）があり、全体の統制がとれていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の開始、ポイントとなる時点での説明、休憩、片付け、終了等の合図が必要なタイミングでの責任者からの発話は全体を統制する上で重要である。 マニュアル等に記載するとともに、リハーサル等で再確認し、共有・定着を図ることが望まれる。

■課題及び対策に関する提案■

改善すべき事項	今後の対策に関する提案
<ul style="list-style-type: none"> 事前説明はあったが、当日の打ち合わせ等も特になく、責任者（担当）の方も不在であったため、具体的な段取り等分からないまま始まったとの意見がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 要因として、情報提供の遅れ、手順書の未整備又は周知不足、事前打ち合わせやリハーサルの不足などが考えられる。対策としては、手順書の充実と周知、要素訓練、事前検討会、リハーサル等の計画的な実施が考えられる。
<ul style="list-style-type: none"> 車両確認検査：GMサーベイメータでの測定では、車両と測定器の距離が離れ過ぎ、測定速度が早過ぎる傾向があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 実災害時に問題になるので、マニュアル等に注意事項としてマニュアルに沿った測定方法（距離数cm、速度10cm/秒）明記するとともに、事前説明やリハーサルにおいて繰り返し説明し、周知と定着を図る。

(5) 住民避難関係

ア 全般

避難及び一時移転は、大きな遅れがなく予定通り実施されたが、細部では情報共有不足や連携不足などによる課題事例が見られた。

■ 良好事例と助長策 ■

良好事例	助長策
<ul style="list-style-type: none"> ・ P A Z 避難において、防災アプリ活用により一時集合場所受付、バス乗車確認、避難所受付で、避難者がスムーズにできていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 更に使い勝手の改善と住民、行政双方の操作習熟を図ることが望まれる。

■ 課題及び対策に関する提案 ■

改善すべき事項	今後の対策に関する提案
<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所や避難退域時検査場所において、案内表示が不足している事例がみられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 訓練は人数が限られるが、実災害時は人数が多いので、訓練時からの確な案内表示を行い、効果を検証することが望まれる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 代表者検査、全員検査を行ったが、検査結果がどうだったのか、そのまま全員で一緒のバスに乗って避難して大丈夫なのか教えてほしかったとの意見があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育の観点と住民の安全確保のための情報共有の観点から、事前に想定 Q & A を準備して配布することや、訓練終了後に不明な点等について質疑応答する場を設けること等により、関係者及び組織の対応力向上が期待される。

イ P A Z 避難

全体的には、避難及び付随する活動が遅滞なく円滑に行われた。

■ 良好事例と助長策 ■

良好事例	助長策
<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災アプリ活用によりバス避難集合場所受付、バス乗車確認、避難所受付がスムーズにできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実災害時に備え、全住民の登録推進、非登録住民に対する対応策の確立を進めるとともに、アンケートの意見などを踏まえ、より使いやすいシステムとするための改良や取扱講習の開催など、一層のシステム普及を促進することが望まれる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 集合場所、避難場所それぞれで車両誘導、集合場所、避難場所入口の誘導など、役割分担が明確であるとともに、相互に協力していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適切な誘導體制は住民の安心につながるなので、実災害時の避難人数等も想定したより充実した体制を検討し、訓練で検証することが望まれる。

■課題及び対策に関する提案■

改善すべき事項	今後の対策に関する提案
<ul style="list-style-type: none"> 避難バス車内で、シートベルトの着用等の安全注意喚起が実施されていなかった。(昨年度も同様の状況が見られたので、次年度は今回の課題と対策、良好事例と助長策をまとめ、周知することが必要である。) 	<ul style="list-style-type: none"> 車内に限らず、各拠点の段差や滑りやすい箇所等を事前に把握し、案内板、配布資料への明記、口頭での注意喚起等により、安全確保を図ることが望まれる。
<ul style="list-style-type: none"> 避難場所（宝山ホール）に避難者の誘導看板がなかった。訓練で避難者人数が限られており、県の誘導員で整理誘導できてはいた。 	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ実災害時の状況を想定しておくことが必要であり、人数が少ない訓練であっても、実災害時に必要と考えられる情報は明示することが望まれる。

ウ UPZ一時移転1（薩摩川内市八幡地区）

■良好事例と助長策■

良好事例	助長策
<ul style="list-style-type: none"> 事前に原子力防災アプリをインストールし必要な個人情報を入力することで、住民広報や情報収集及び安定ヨウ素剤の問診・配布等、一時移転に係る一連の作業において、煩雑な手間や混雑を解消するとともに、職員の省力化や避難情報把握の迅速化が図られる等、同アプリの有効性を確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後は、住民説明会の継続実施やマスコミを通じてのPR活動などによって住民への普及率をさらに高めるとともに、機能の改良を進め、実災害時に備えることが望まれる。
<ul style="list-style-type: none"> 八幡地区コミュニティセンターでの屋内退避に係る受付や案内誘導、避難バス乗車時の住民登録、避難退域時検査場所及び避難先での受付、車内での案内説明等、一連の手順が概ね円滑に行われていることを確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も避難住民との直接対応に当たる職員の業務が、年度を超えて引き続き円滑に実施できるよう、一連の手順や基礎的事項をまとめた簡易なマニュアルを作成、配布し、必要に応じて説明会を実施することなどの施策により、住民の安心、信頼感が高まることが期待できる。

■課題及び対策に関する提案■

改善すべき事項	今後の対策に関する提案
<ul style="list-style-type: none"> ・ 薩摩川内市の一時移転について、避難退域時検査場所（柏原グラウンド）までの経路が運転手と共有されていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 迅速な避難と住民の安心のため、事前の経路確認等の対策が望まれる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難用の中型観光バスが、薩摩川内市八幡地区コミュニティーセンター駐車場入口付近の樹木の枝葉に接触する可能性があるとして、同駐車場に進入できず、住民はコミュニティーセンターから場外に駐車したバスまで徒歩で移動した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 樹木管理者と調整の上、定期的な伐採することにより、駐車場への車両入場が可能になり、避難住民の無用な徒歩移動、更に徒歩移動の間の被ばくを回避することが可能と考えられる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋内退避場所から一時移転する際に、行動上の条件や環境が避難住民とほとんど同じであるにもかかわらず、誘導担当職員が防護服一式を装着しており、住民の不安を招く可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「オフサイトの防災業務関係者の安全確保に関する検討会 報告書（平成28年1月5日）」に基づく対応のためと思われるが、原子力災害に被災した避難住民に無用な不安感を抱かせないよう、丁寧な説明が望まれる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 訓練参加経験のある住民がバス添乗市職員に八幡地区の避難計画について質問したが明確に回答できず、後に避難計画を確認して補足した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民の安心のため、職員は担当地区の避難計画等を事前に確認し、想定問答も作成しておくことが望ましい。

エ UPZ一時移転2（さつま町神子柳野地区）

■良好事例と助長策■

良好事例	助長策
<ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬ではあるが、聴覚障害者、車椅子使用者、発熱者を対象者として設定しており、要員の応用力向上につながることを期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も継承するとともに、視覚障害者や不安を抱えた住民など、色々な状況を設定して、実災害時に備えることが望まれる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ QRコードによる本人確認や聴覚障害者への対応における発話の文字変換アプリ（UDトーク）の活用により、受付対応が円滑に実施されていた。 これらの事例から、本アプリが今後の災害対応の効率化に貢献するものと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ システムのさらなる改善と普及率の向上、住民説明会の開催などを行い、災害対応をより迅速・的確にして行くことが望まれる。

<ul style="list-style-type: none"> 検温，新型コロナ感染予防問診票記入等対策が適切に実施されていた。 また，発熱者に対しての誘導隔離が非常に迅速だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も別の感染症が流行する可能性もあるので，引き続き対応を継続し，定着させることが望まれる。
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------

■ 課題及び対策に関する提案 ■

改善すべき事項	今後の対策に関する提案
<ul style="list-style-type: none"> 屋内退避場所である神子地区コミュニティセンターは部屋の入口に段差があり，車イス使用者にとっては厳しいものがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 早期の建物改修は難しいと考えられるので，仮設スロープ等の機材を準備するなど，バリアフリー対策が望まれる。
<ul style="list-style-type: none"> 参加住民数が少なく，地区長以外は町の職員による模擬住民であった。ある程度知識のある人が主体であったので，活動は概ね順調に進んだが，実災害時を模擬した想定も検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 住民説明会等による広報を充実させ，参加者を増やすことと，様々な状況を想定し，継続して対応力を高めていくことが望まれる。